

Yokaro

TRAVEL PHOTOGRAPH

夏
2011
旅

宮崎・鹿児島



2011年8月。大潮の知林ヶ島
最近はインターネットで、砂州の露出具合を事前に知ることが出来る。
本日の出具合は、まあまあとあって家族連れやカップルで賑やかだ。
鹿児島県指宿市知林ヶ島

Yokaro vol.02 夏

企画・制作・編集・撮影/デザインスタジオ ワイズ

2011 禁止・無断転載 © デザインスタジオワイズ

宮崎県/日南市.....油津
宮崎県/串間市.....恋ヶ浦
宮崎県/日南市.....飢肥
鹿児島県/指宿市...指宿枕崎線・知林ヶ島
鹿児島県/湧水町.....沢原高原
鹿児島県/鹿児島市.....桜島フェリー
表紙: 霧島神宮

湧水町

夏、青々とした田んぼが広がる風景は、なぜか懐かしく感じる。鹿児島県始良郡湧水町の田園



九州自動車道の栗野インターを降り、栗野岳を目指して10分程走ると、道は杉の木立ちの中へ入っていく。しばらくすると左手に、沢原高原と書かれた手作りの看板が見えた。沢原高原は、標高400mから600mの間に広がる、阿蘇久住高原に次ぐ九州第2の広大な草原地帯で、ゆうすげの花や高山植物の宝庫だ。真夏の日差しを遮り、ほの暗いうっそうとした森の中を、道路は徐々に細く勾配もキツクなっていく。時折、左手に草原が見え始めると高原に到着したことに気づく。舗装道路が途切れ砂利道を登っていくと、遠くに吉松の町並みや矢岳高原の眺望と、草原の尾根が連なる絶景が広がっている。しかし、高原に入れるのもこのあたりまで。大部分が陸上自衛隊霧島演習場となっているため、通常民間人は立ち入ることができない。年に一度「ゆうすげを観る夕べ」の日のみ入ることができる。

近くには、日本で唯一残るタラの原生林や、樹齢数百年の巨木が生茂る林などがある。こちらは普通に鑑賞することが可能だ。

沢原高原

鹿児島県始良郡湧水町



肥薩線栗野駅近くの鉄橋を渡る「特急はやとの風」
湧水町の北側に流れる川内川に架かる鉄橋を渡ると次は吉松駅。
特急はやとの風の終着駅は、肥薩線の鹿児島最北の駅になる。その先は宮崎県の真幸駅、熊本県矢岳駅へと鉄路は「山線」と呼ばれる区間につながっていく。



堀川運河と堀川橋

映画男はつらいよのロケ地になった風景。懐かしい佇まいが残されている。

油津

宮崎県日南市

堀川運河

宮崎県日南市油津



油津の市街地を静かに流れる堀川運河は、藩政時代に植林された飢肥杉を広渡川から油津港へ送り込むことを目的に造られた人工の運河だ。飢肥杉は、樹脂が多く耐久性に富んでいることから、造船材の用途に適した材木として「弁甲」と呼ばれ大きな需要を生み、藩財政に大きな富をもたらすことになった。

運河に架かる石橋「堀川橋」から眺める堀川には、往時の賑わいを見ることは難しいが、旧き良き時代の漁港風景の佇まいとして、映画「男はつらいよ」のロケ地として選ばれた。運河沿いにある床屋の、女主人との出会いのシーンで、寅さんが「静かなまちだね」と堀川橋の袂で語るシーンの背景に、筏を流していく風景が描かれている。界隈の町屋も趣があり、ひよっこり寅さんが出てきそうだ。

歴史ある場所には、日本人の心にある古里への郷愁を呼び起こさせる「何か」が残されている気がする。堀川運河にも、その何かを感じさせてくれる佇まいが残されている。





油津

宮崎県日南市油津



油津さんぽ 宮崎県日南市

JR油津駅から油津港へと続く国道220号沿いの一角が油津一丁目。通りに面した二階建ての建物が、目に飛び込んできた。

杉村金物本店は1892年（明治25年）創業の老舗で、三階建ての美しい建物は1932年（昭和7年）に建築されたものという。店内に入ると一瞬でタイムスリップしたような錯覚に陥る。「御用の方はこのプザーを押してください」と書かれたプザーを押し、こと数回「まったく返答が無い。「御免ください」の問いかけにも反応がない。時が止まったように、しばらく待ってみたが、誰の姿も気配もなかった。振り返ると国道をトラックが走り抜けていった。

細い住宅街の道沿いには、格子囲いのある古い家屋が多く見受けられる。新しい住宅でもサッシ窓を格子で囲い、景観を壊さないように工夫している。住宅街の路地裏には車も、ほとんど進入してこない、時間が静かに流れていく。

国道沿いに建つ杉村金物店。陳列台や商品棚、壁に貼られている商品看板。ありとあらゆるものが、時を越えそのままに現役だ。



飢肥

宮崎県日南市



新緑の5月、大手門の木々は雨に洗われ、濡れた路面と相まって小京都と呼ばれる風情あふれる情景から飢肥の旅は始まった。

飢肥は五万一千石の城下町。その中心に飢肥城がある。城下の形成は、天正15年（1587）に飢肥藩初代伊東祐兵が豊臣秀吉から飢肥を領地として与えられてから、本格的に建設が進んだと考えられている。

明治期に取り壊され、樹齢100年の飢肥杉を使用して復元された大手門をくぐる時、内柵形から大手柵形、北の石段が一望できる。周囲を石垣と白漆喰の城壁が取り囲んでいる。この部分だけでも充分藩政時代にタイムスリップできる風情がある。

北の石段を登り左手には、本丸・松尾丸へ続く大手道の石段がある。右に進むと本丸への入り口となる虎口が現れる。傘をさした観光客が見え隠れする情景を眺めていると、城内の配置が、防御のために考えられて造られていることに、あらためて気づかされた。



飢肥城址

宮崎県日南市飢肥



飢肥城の大手門前を、揃いの傘で観光客が進んでいく。
登城する家臣団のように見えた。

本丸大手の一之門跡へと続く大手道の周辺には
飢肥杉の巨木が立ち並んでいる。



よし
しょう
かん
豫
章
館



旧
山
本
猪
平
家



藩主伊東家の住まいとして明治2年に造られた。豪商の煌びやかな商家とは趣を異にする、武門らしい質実な建物や、愛宕山を借景にした枯山水の庭園が目をつけた。



飢肥の豪商であった「山本猪平」が明治40年（1907）頃に建築した商家の本宅。玄関先のタイルなど、建具や明り窓などの造作に趣向が凝らされている。

築島

宮崎県串間市



築島 宮崎県串間市
日南から都井岬を目指して国道 448 号を南へ、道の駅なんごうを過ぎ 5,6 分、「岬だ」と最初は思ったが、よく見ると漁港からわずか 200m 程先にある独立した島「築島」だと分かった。国土沿いの電信柱から島に向かって海を越え電線が伸びている。平成 22 年 3 月までは串間市の市木小学校の分校があった。現在は休校中

明治 2 年に愛媛県宇和島の築島家の人々が、島の半分を当時の金額 61 円で購入しそれから移り住んだという。一番多いときで 130 人程が住んでいたという。伊勢海老漁が盛んで、島民の大半が漁業で生計を立てている。本土側の舳漁港から定期船はなく、漁船で行き来をしている。鹿児島県の出水市にも、生活環境等がそっくりな桂島という島がある。

太平洋 波乗り 風情。

8月の終わり、日南から都井岬方向へ国道を南下する。左手は、ずーっと太平洋の海が広がっている。宮崎県の東海岸は全国的にも有数のサーフスポットがひしめき合っているサーファの聖地のようなところだ。

築島を過ぎ、芋洗いの猿で有名な幸島が見え始めたころ、美しい砂浜が目についた。石波海岸と呼ばれる砂浜は、幸島へ長く延びた浜辺だ。鹿児島県の大隅半島の太平洋岸にある辺塚海岸に似ていると思った。広く青い海原に、一人のサーファーが沖を目指してパドルングをしていた。

日が西に傾き始めたころ、串間市の恋ヶ浦に到着した。海岸沿いの駐車場には様々な地域のナンバーが停まっている。カラフルなボードにウェアが波間に浮いて波待ちをしていた。徐々に山陰に沈みつつある太陽が射光線となって山並みを照らしている。真夏の遅い夕暮れは、昼間の暑さが嘘のような、涼やかな風を海から運んできてくれる。波が少しずつ岸に向かって満ち始め、ひとり二人と海から上がってくる。遠く沖を大型の貨物船が進んでいく、上空の雲がほんのりと茜色に染まり始めていた。

石波海岸 宮崎県串間市

国道448号沿いから美しい浜辺を見ることが出来る。後方には、芋を洗う猿が生息する幸島が見える。



恋ヶ浦海岸 宮崎県串間市

年間を通じてサーファーで賑わう、サーフィンメッカ。

恋ヶ浦の海は、宮崎県内でも有数の美しさを誇る。



波静か
沖の彼方に
夏は往く



指宿枕崎線

鹿児島県鹿児島市



特急指宿のたまて箱

平成 23 年 3 月 13 日から運転を開始した、指宿枕崎線では初めての定期特急列車。薩摩半島の最南端にある長崎鼻一帯に伝わる浦島太郎伝説の玉手箱にちなんで命名された。「いぶたま」の愛称で呼ばれている。

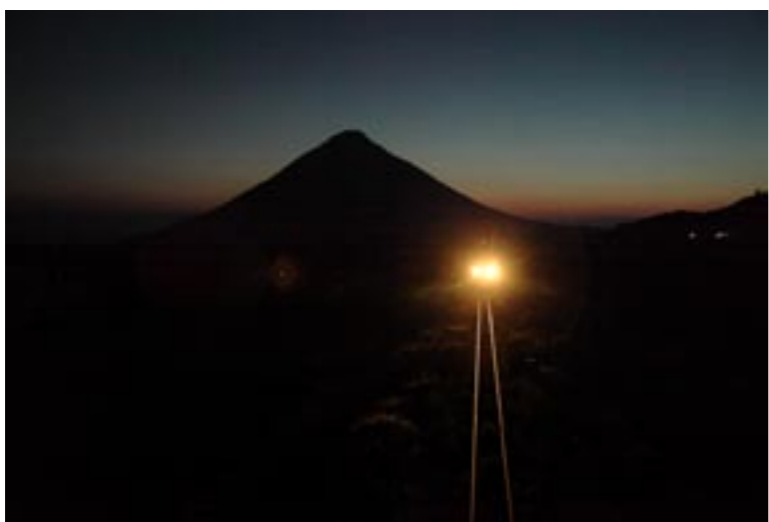


指宿枕崎線は、鹿児島中央駅から薩摩半島を南下して、終点の枕崎までをつなぐ路線だ。中央駅を出発した列車と、路面電車が平行に走行する区間がある。市電の二軒茶屋電停付近から笹貫電停あたりでは、住宅街の中を並列走行する風景を見ることが出来る。市街地をぬけると、右手に錦江湾と桜島が姿を現す。南薩摩の温暖な気候に、一月の初旬から沿線には菜の花が咲き揃い、一足早い春の風景が車窓に広がっている。

指宿枕崎線には、「観光特急指宿のたまて箱」や、「快速なのはなデラックス」などの改造車両と、キハ40系の一般車両が運行している。特急は指宿駅まで、快速は山川駅までの運行で、山川駅から枕崎駅間は一般車両で運行されている。本土最南端の駅「西大山駅」に停車する車両は一般車両になる。

指宿枕崎線でも、有名な撮影ポイントと、呼ばれている場所がいくつかあり、その中でも蒸気時代からの定番ポイントとして有名な場所がある。指宿枕崎線の全車両が撮影でき、背景に錦江湾を、左手にビローの木を見通せるロケーションの良さもあって、多くのカメラマンが撮影している。

開門岳を背景に線路が、田園風景の中を一直線に伸びるポイントも、定番の撮影場所になっている。夕暮れ時、沈む夕日とシルエツトになった開門岳をバックに撮影ができた。






桜島フェリー 鹿児島県鹿児島市

夕暮れ、紫紺に彩られた桜島に向かって桜島フェリーが出港していく。濃紺の海上に、光の塊が眩しく輝くフェリー。昼間の姿とは雰囲気が一変する。海に浮かんだメリーゴーランドのように見えた。

桜島 鹿児島県鹿児島市

9月初めの磯海水浴場。噴煙を勢いよく上げる桜島の上空には、秋の気配が漂っていた。





宮崎県／日南市……………油津
宮崎県／串間市……………恋ヶ浦
宮崎県／日南市……………飫肥
鹿児島県／指宿市…指宿枕崎線・知林ヶ島
鹿児島県／湧水町……………沢原高原
鹿児島県／鹿児島市……………桜島フェリー
表紙：霧島神宮 裏面：山川

Yokaro vol.02 夏

企画・制作・編集・撮影／デザインスタジオ ワイズ
2011 禁止・無断転載 ©デザインスタジオワイズ